

## ①広州市場概要（魅力）

「広州」という地名は聞いたことがあっても、正確な場所を特定できる方は少ないと思う。特に日本人にとっては、「こうしゅう」＝「杭州」のイメージが強く、「広州」を思い浮かべる人は少数派ではないだろうか。あまりなじみのない「広州」であるが、中国第三の都市とも言われる市場を簡単に説明したいと思う。

広東省の省都で、華南地域全体の経済的な中心である。広東省の中南部、珠江デルタ地帯の北部、西江・北江・東江の合流地点に位置する港湾都市である。広州港は清代末期まで中国最大の貿易港であった。

1957年以降は春と秋の年2回、広州交易会（中国輸出入商品交易会）が開催されている。この広州交易会の期間は外国から多数の来客者があり、ホテルやレストランの値段が3倍まで上昇することもある。

1984年に沿岸開放都市に指定、経済技術開発区が設置され、90年代には天河ハイテク産業開発区や保税區が設置された。現在は日系自動車メーカー3社を始め、多数の外国企業が進出している。

2009年の一人当たりGDPは8万元を上回り、一人当たりの消費性支出は2.3万元を超え、上海・深セン・北京よりも消費性向の強い都市である。また人口は流動人口も合わせると1,200万人規模となり、消費欲が旺盛な大都市だと言える。

一般的に使われている言語は、広東語・北京語の順であるが、若者世代はすべて北京語を理解し使うことが可能である。しかし、旧市街地の高齢者となると北京語は聞き取れても話せないという人もいる。

### ■ 魅力 その1 「食は広州にあり」

「食は広州にあり」と言われる通り、広州の食品に対する支出は全国でも一番高い。2010年の消費支出に対する内訳では最大の33%が食品に当てられている。広東料理の代表である「飲茶」は早朝から始まり、夜中まで夜食を食べる文化がある。また中国の各地方からの出稼ぎ労働者も多いため、湖南料理・四川料理・東北料理といった専門店も多く、日本料理・韓国料理・イタリア料理・トルコ料理といった世界各国の料理店も増えている。広州人は保守的で基本的には広東料理を好むが、若者や富裕層は海外旅行を経験していることもあり、日本料理やイタリア料理を食べる回数も増えている。

### ■ 魅力 その2 香港の影響を受けるファッション

広州は衣服に関して、北京・上海に次ぐ消費地となっており、ユニクロ・H&M・ZARA等のショップは休日ともなると店内が歩けない程の人でいっぱいになる。元々広州人は香港に親戚や友人がいる関係で、年に何度かは香港に足を運ぶ機会がある。そのため外国のブランドの情報も意外と浸透し、出店と同時に来客であふれるといった現象が見られる。

### ■ 魅力 その3 交通の起点

広州市は現在交通網の整備を進め、近隣都市と高速鉄道および高速道路で繋がっている。現在高速鉄道を利用すると、武漢（湖北省の省都）まで3時間ほど、深センまで70分ほどで到着する。2015年までには香港の西九龍まで1時間弱、マカオに隣接している珠海までも1時間弱で移動することが可能となり、広州市内だけではなく近隣衛星都市も市場として考えられる魅力がある。